

新幹線を支える
イグチの銅合金インゴット

高品質を追求する**イグチ**の銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています

株式会社 **イグチ**

〒554-0052 大阪市此花区常吉2-3-53
06-6460-2246 代表
FAX 6460-2355

青銅・リン青銅
アルミ青銅
美術青銅
鉛青銅
など各種

N700系
のぞみ
(時速300km)

63S・D粉
銅・真鍮粉

(株) **アイコー**
代表取締役 宮本盛徳

東大阪市洪川町2-9-27
本社 (06) 4307-0600
三重県伊賀市西之沢162
伊賀アルミセンター (0595) 45-6510

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 **日刊金属新聞社**
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円



橋本健一郎氏

アルミ新地金とスクラップ急減 は輸入合金スクラップが二ケタ増

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

【概況】二月前半は米雇用統計が予想以上の好結果だったことや、中国人民銀行総裁が金融緩和について肯定的なコメントをしたことで上昇する場面はあったが、シカゴPMI指数の悪化、米ケースシラー指数(不動産価格)の悪化、さらにFRBバーナンキ議長長の「米経済の回復ペースは苛立つ」とのコメントは嫌気し、一六七ドルと五六ドル下落での前半締めとなった。

後半はムーディーズの欧州の複数の国債、銀行の格下げやHSBC発表の中国のPMI(消費者物価)が四カ月連続五〇を割るなどマイナス材料はあったが、米住宅指標の予測を上回る上昇や中国人民銀行が預金準備率を〇・五パーセント引き下げるなど米中景気回復期待が台頭し上昇、三月六日現在でLME(現物相場)二、三三四ドルと八二ドル強上昇のスタートとなった。

【前月の経済指標】

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比一・三%減の八三万七、一九七台であった。

◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比二六・六%増の三三万三、二二三台(前年比三一・九%増)。

◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比八〇・八%増の二六九万六、五〇〇台。

グラスバ十二日に操業を再開へ

銅精鉱の販売と出荷に お影響

米鉱業大手フリーポート・マクモラン・コパー・アンド・ゴールドは七日、インドネシアに保有するグラスバーク銅山の操業を十二日に再開することを明らかにした。同銅山では昨年の三カ月に及ぶストに続く混乱で、二月二十三日以来、操業が停止している。

同社は、銅山の生産が通常の水準に戻るまで、銅コンセントレートの販売と出荷に引き続き影響がある見込みだとした。

同社は先に、二〇一二年に銅九億三、〇〇〇万ポンド(うち第一四半期は二億一、〇〇〇万ポンド)、金一一〇万オンス(同四〇万オンス)を販売するとの見通しを示したが、現在、これらを再検討中で、グラスバークの操業混乱の影響を反映して改定することを明らかにした。

同銅山に対する不可抗力条項は依然解除されていない。

(二面へ続く)

軽圧品、二次合金ともに生産減

(一面より続く)

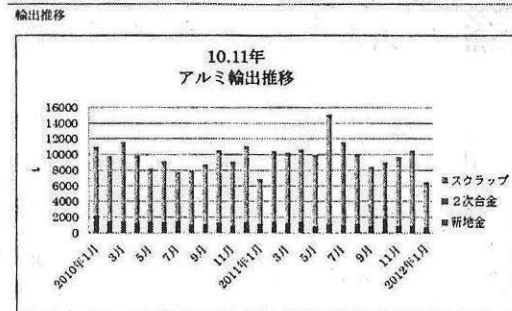
◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)四・五%減(昨年比一・一%減)の六万五、九八四戸であった。

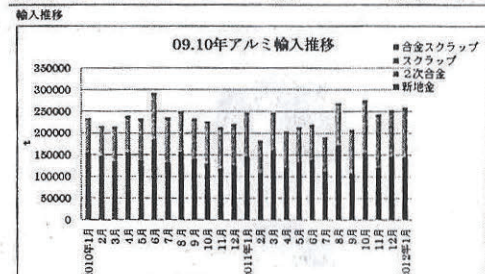
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前月比六一・九%減の四八t、二次合金が一・二%減の七二八t、スクラップが四一%減の五、七二六t。

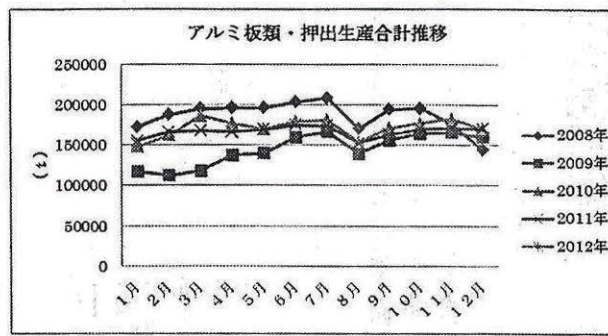
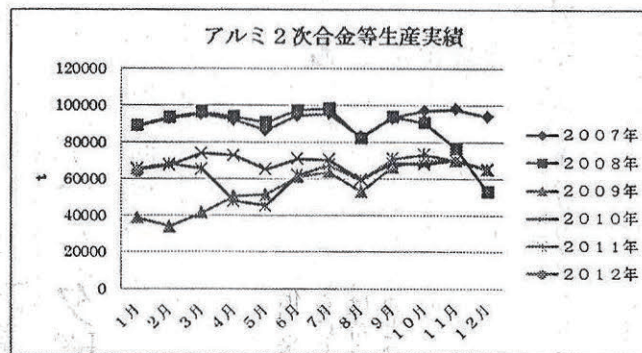
	11月	12月	1月
輸出			
新地金	167 t	126 t	48 t
前月比	+6.4%	-24.6%	-61.9%
二次合金	716 t	737 t	728 t
前月比	-55.9%	+2.9%	-1.2%
スクラップ	8778 t	9683 t	5716 t
前月比	+20.7%	+10.3%	-41%



	11月	12月	1月
輸入			
新地金	12万474 t	14万6481 t	14万5073 t
前月比	-21.5%	-21.6%	-1%
二次合金	11万6755 t	10万1202 t	10万8645 t
前月比	+0.3%	-13.3%	+7.4%
スクラップ	559 t	767 t	617 t
前月比	-33.8%	+37.5%	-19.6%
合金スクラップ	5711 t	4843 t	5827 t
前月比	0%	-15.2%	+20.3%



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比一・六%減の六万三、八九〇tであった(昨年対比二・四%減)。(六面に続く)



【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比五・三%減の一五万一、四二五t(昨年対比二・三%減)。

スクラップ 前月後半比五〇一〇円高予測

自動車メーカーの堅調維持などで

(二面より続く)

【見通し】

自動車関連は堅調 それ以外はさらに下振れの月となった。

自動車生産は前年比一八・六%増の八三万七、一七九台と六カ月連続上昇。下振れ懸念もよそに堅調に推移。

また国内自動車販売台数も三三万三、二一三台で前年比三一・九%増と急上昇、また二、四月の自動車生産計画が八〇・九%増と自動車関連は絶好調。

しかし自動車関連のアルミ二次合金生産は、前月比一・六%減の六万三、八九〇t。昨年対比二・四%減と三カ月連続調整中、今月に供給不足が予測される。

その他、家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比五・三%減の一五万一、四二五t。昨年対比二・三%減と小幅悪化。

新設住宅着工数は季節調整前月比四・五%減の六万五、九八四戸。前年比は一・一%減とここ数カ月一進一退、急回復はなくこの調子が続きそうである。

輸入塊は上海シグマが十二月末現在で二、三〇〇ドル(変わらず)、ロシア塊は二、二〇〇ドル(プラス一五〇)と上昇している。

輸入は新地金が前月比一・一%減の一四万五、〇七三t、自動車関連の二次合金は七・四%増の一〇万八、六四五t、合金スクラップは

一、二月中国輸出、七%増に鈍化

欧州債務危機など影響—商務省

した。

中国の陳徳銘商務相は七日の記者会見で、一、二月の輸出の伸びが前年同期比約七%と、前年十二月の前年同月比一三・四%を下回ったことを明らかにした。輸入の伸びは輸出をやや上回ったとしているが、十二月の一・八%からは減速したもよう。

同相は輸出減速の原因について、「特に欧州の債務問題が欧州の消費などに影響したほか、国内では各方面でコスト上昇要因などがみられる」と説明。中国政府が設定した一〇%の輸出増加目標について「可能だが、苦しい努力を通じて初めて実現できる」とクギを刺

二〇・三%増の五、八二七t、スクラップは一九・六%減の六一七t。

輸出は新地金が前月比六一・九%減の四八t。二次合金が一・二%減の七二八t。スクラップが四一・一%減の五、七一六t。

アルミ原料需要に関して新設住宅着工数は一・一%減(前年比)と低迷、右肩上がりの回復は見込めないものの、最大の需要家である自動車メーカーの自動車販売・計画共、約三二%増、八一%増と好調維持。前月に続き販売、計画の伸びに比べ前年比一八%増と伸びが少ない生産は今急増すると思われる。また二次合金生産も二・四%減(前年比)と調整が進み、輸入塊の高止まりを受け、供給不足が考えられ今後はこちらも生産が急増するのとの予測。

好調な自動車生産計画に二次合金メーカーが疑心暗算であったが、いよいよ三月以降、新年度にむけて積極的な購入が期待されるLME価格について、ギリシャ救済をうけての欧州懸念の後退、米経済指標の好転、中国金融緩和期待などプラス材料もあり、また現在の水準が生産コスト近辺(二、三〇〇ドルであることから下値不安も限られ、若干上げの二、一〇〇〜二、四〇〇ドルを予測。スクラップ価格については二月後半価格から五円〜一〇円高を予測。

一月の中国の輸出は前年同月比〇・五%減少、輸入は一五・三%減少した。昨年は二月だった春節(旧正月)が一月下旬にずれたことによる季節要因が影響した。二月はその反動で高い伸びを示すとみられる。例年、この時期の貿易動向は一、二月を合わせたデータで比較するのが一般的。

◇KLT M ず相場

八日

一三・三七〇

六〇

米ドル
トン